

① 研究業績

1. 著書

- ・ 該当なし

2. 論文

- ・ 「日本語会話における話題転換時の相づち・頷きの連鎖について-初対面同士の2人による自由会話の分析から-」、半沢千絵美、ときわの杜論叢、査読有、第3号、採択済、2016年4月予定
- ・ 「聞き手としての行動の母語転移の可能性：物語伝達時の相づちとうなずきの使用の分析」、半沢千絵美、小出記念日本語教育研究会論文集、査読有、19号、23-35頁、2011年4月
- ・ 「日本語学習者の聞き手としての行動-相づちとうなずきの使用と認識の結果から」、半沢千絵美、Journal CAJLE、査読有、vol. 12、159-179頁、2011年8月
- ・ “Listening behaviors in Japanese: *Aizuchi* and head nod use by native speakers and second language learners.” Chiemi Hanzawa, Doctoral Dissertation, The University of Iowa, pp.1-212, December 2012.

3. 科研費実績

- ・ 該当なし

4. 学会発表

(1) 口頭発表

- ・ 「学習者の「聞き方」に潜む不自然さ-母語話者による学習者の聞き手行動の評価からわかること-」半沢千絵美、カナダ日本語教育振興会 (Canadian Association for Japanese Language Education) 年次大会、2015年8月
- ・ 「母語話者と学習者の聞き手行動の違い-相づちと頷きの連鎖からみる考察-」半沢千絵美、第二言語習得研究会全国大会、2013年12月
- ・ 「自然な聞き手行動とは-母語話者と学習者の相づちと頷きの分析からの考察」半沢千絵美、日本語教育国際研究大会名古屋大会、2012年8月
- ・ “Beyond frequency: analyzing function of verbal and nonverbal *aizuchi* by native speakers and learners of Japanese” Chiemi Hanzawa, Association of Teachers of Japanese Annual Conference, 2012年3月

(2) ポスター発表、他

- ・ 「母語話者と日本語学習者の話題転換時の言語・非言語行動-相づちと頷きの連鎖の分析から-」半沢千絵美、日本語教育学会第4回研究集会、2015年7月
- ・ 「地域における大学、日本語学校、国際交流協会、NPOの連携の可能性」中川健司・半沢千絵美・矢部まゆみ・浜元陽子、日本語教育学会実践研究フォーラムみんなの実践広場出展、2014年8月

②社会活動

- ・ 専門日本語教育学会 研究討論会実行委員 (2015.3～)
- ・ 日本語教育学会会員／社会言語科学会会員／小出記念日本語教育研究会会員／AATJ (全米日本語教育学会) 会員／CAJLE (カナダ日本語教育振興会) 会員

③学内活動

1. 学内委員

- ・ 全学教育部会委員 (2015年8月～)

2. 日本語教育部内

- ・ 教務担当 (2014年10月～)
- ・ サマープログラム担当 (2015年4月～)
- ・ JOYプログラム日本語教育コーディネーター (2014年10月～)
- ・ 第4回 YNU 日本語スピーチ大会実行委員長 (2014年12月)

3. 海外との連携に関する業務

- ・ 留学生向け短期集中プログラムに関する予備調査実施 (2015年4月～)
- ・ アメリカ・ユタ州立大学 (Utah State University) 訪問 (2015年3月23日～24日)